

松島湾水深棒の平均水面と気圧による水位偏差について

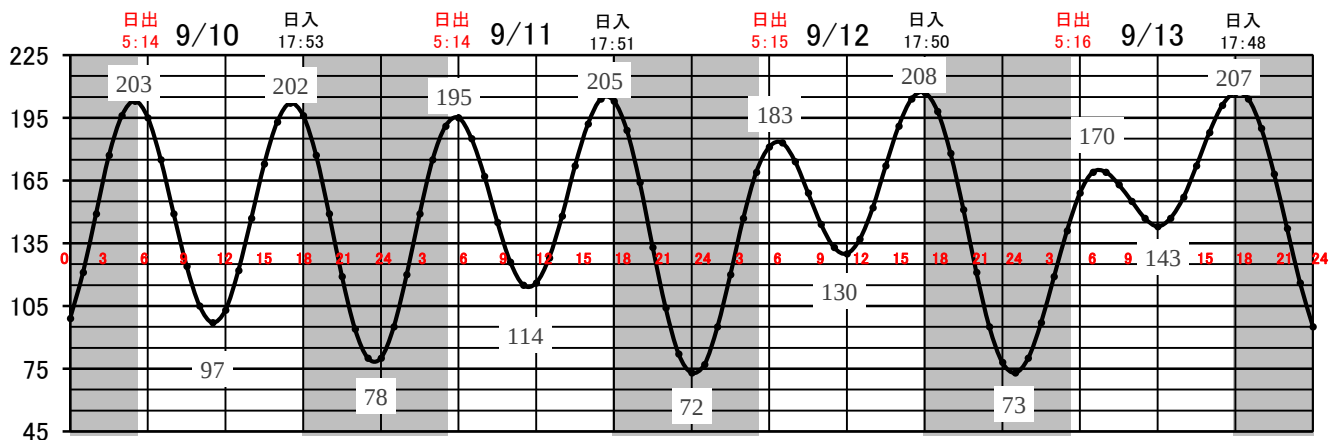
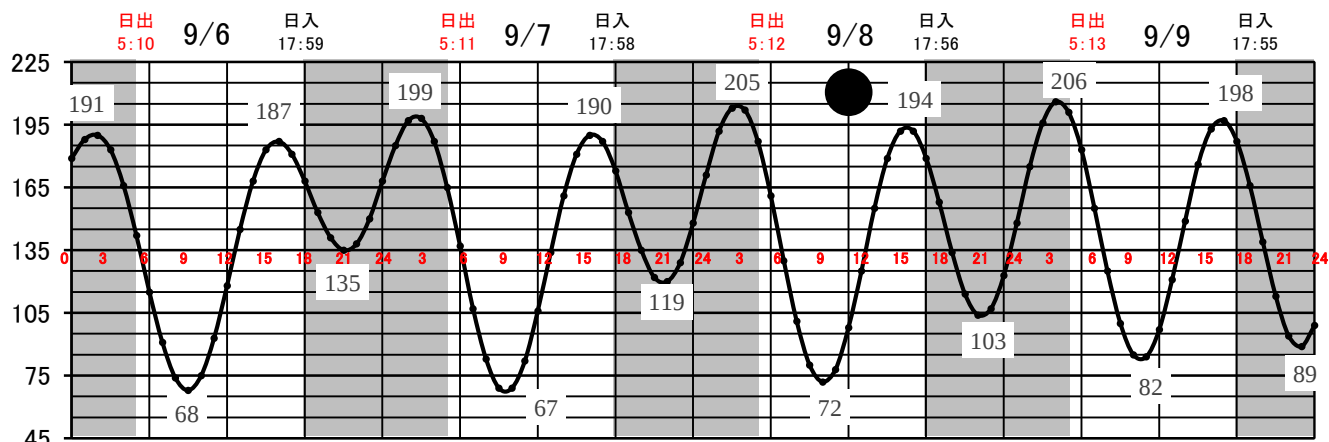
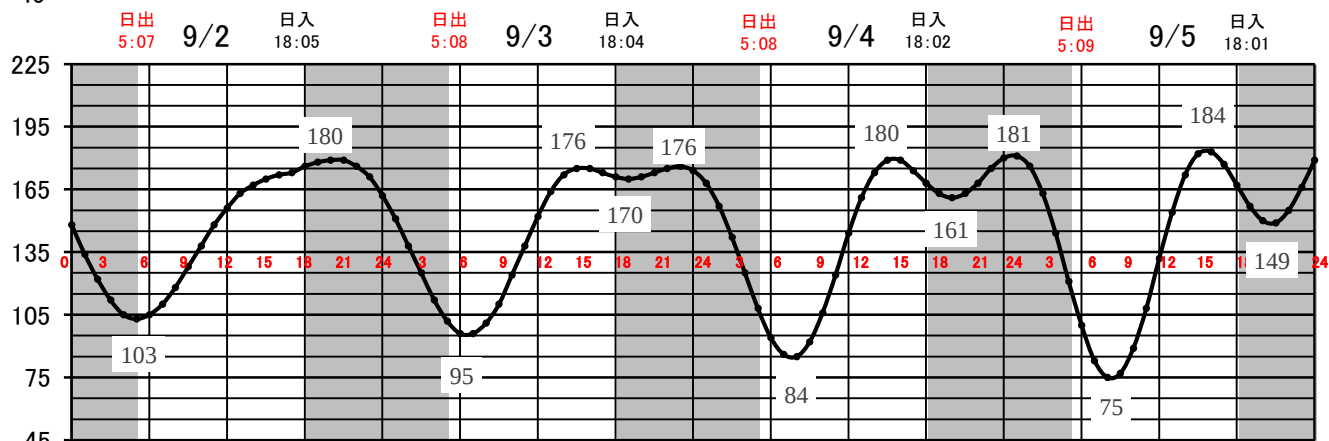
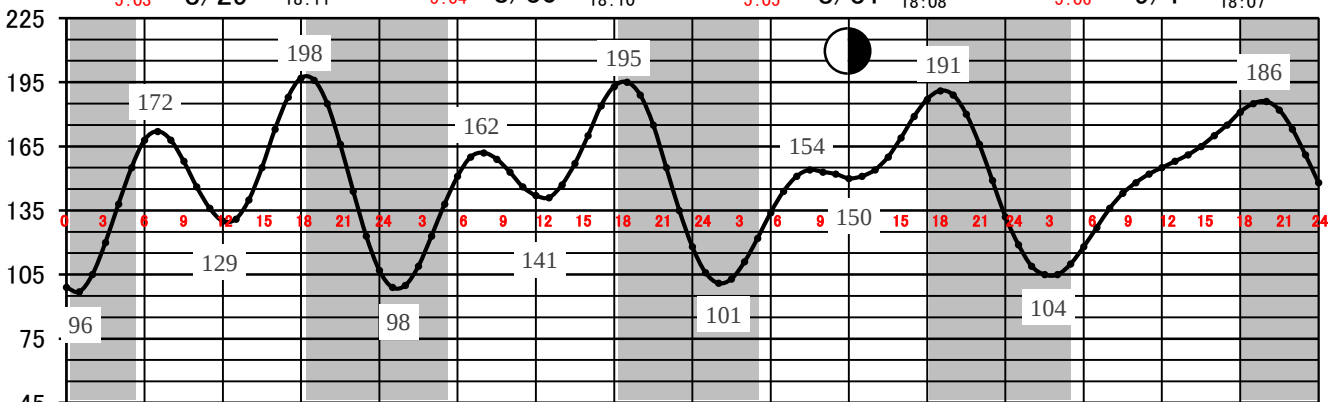
- ・令和7年5月27日～7月10日に(国研)水産研究・教育機構水産資源研究所のご協力により、松島湾の水深棒No.2に潮位計を取り付け、データを解析したところ、平均水面は現在の基準目盛りから－3.1cmにあることが確認されました。このため、今漁期は135cm基準を平均水面とし、0cm基準の目盛りは135cmにあわせて調整します(昨年度は、138cm基準と0cm基準の2つの目盛りがあった)。
- ・令和元年度の解析の結果から、気圧やセイシュ(副振動)の影響により、天文潮位と実測水位のズレ(偏差)が生じることが明らかとなりました。種網を張り込む前に、定期的に水深棒の水位を調べ、天文潮位からのズレと気圧の関係を把握する必要があります。
- ・事前に日時、水深棒の水位を記録し、天文潮位とのズレを確認して下さい(1時間毎の天文潮位はP30～37を参照下さい)。
- ・気象庁HP(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)のアメダスから、当該日時の仙台の気圧(海面気圧)を調べ、基準気圧(1013hPa)との気圧の差を確認して下さい。1hPaの差で海面水位が1cm変化します。

(気圧差) = $1013 - (\text{仙台海面気圧}) > 0$ の場合、気圧差の分、天文潮位より水位が上がります。
(気圧差) = $1013 - (\text{仙台海面気圧}) < 0$ の場合、気圧差の分、天文潮位より水位が下がります。
- ・ただし、セイシュ(副振動)の影響は予測できないので、気圧差を考慮しても天文潮位からのズレは生じます。
- ・種網の張り込み水位は、それまでの気圧差の影響によるズレを把握し、張り込み後の天気予報を参考にしながら、調整して下さい。

令和7年度 仙台新港 潮汐グラフ①(平均水面 135cm)

潮位

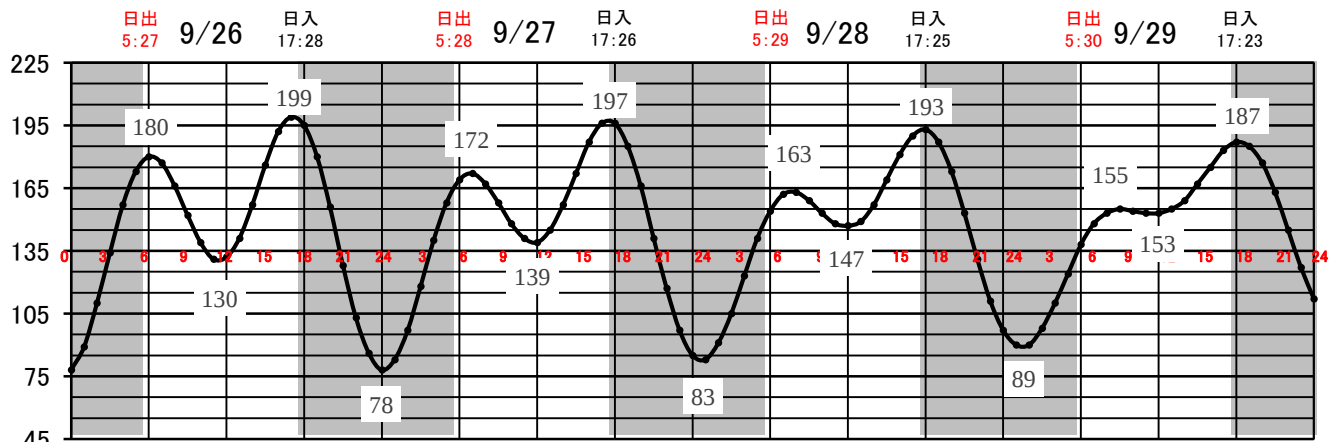
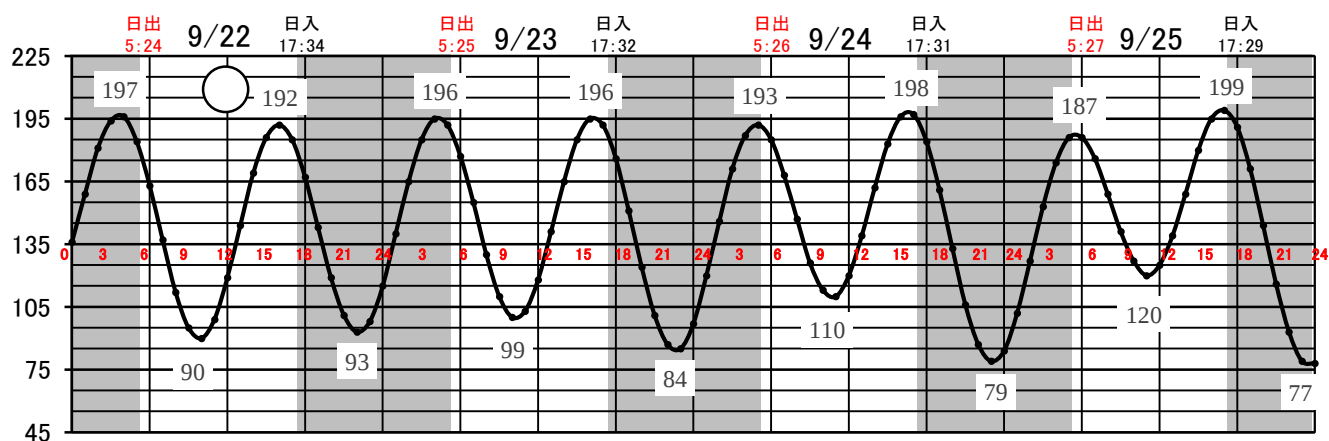
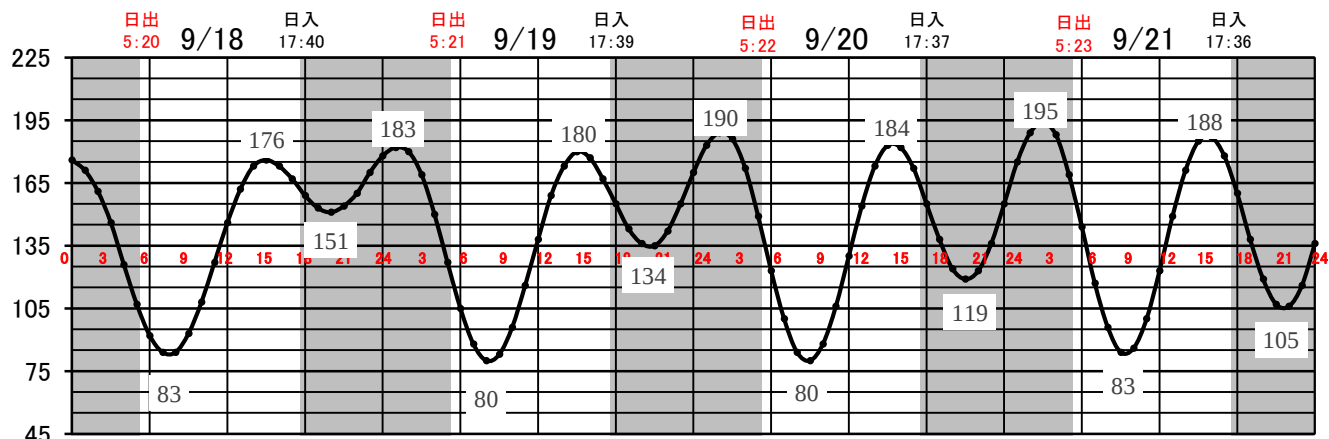
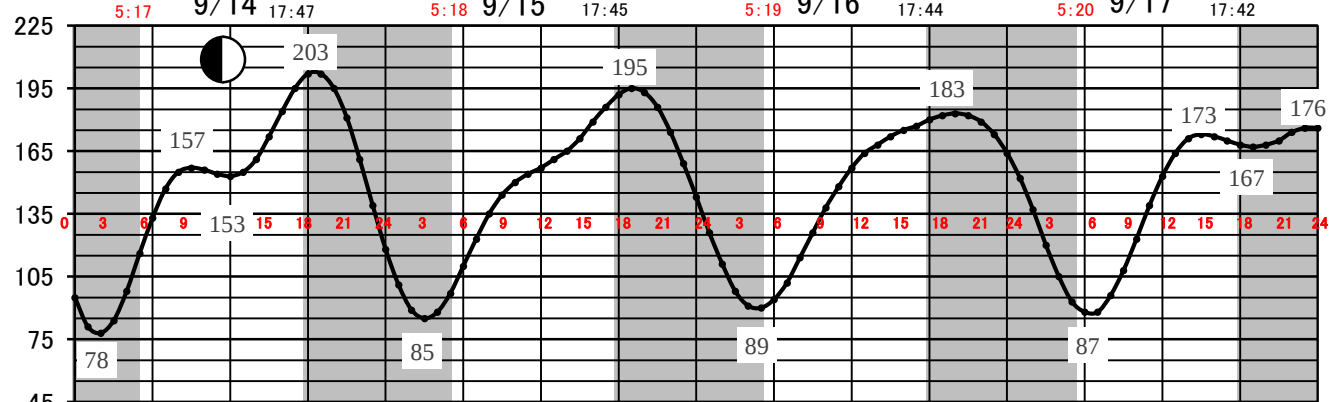
(cm)



令和7年度 仙台新港 潮汐グラフ② (平均水面 135cm)

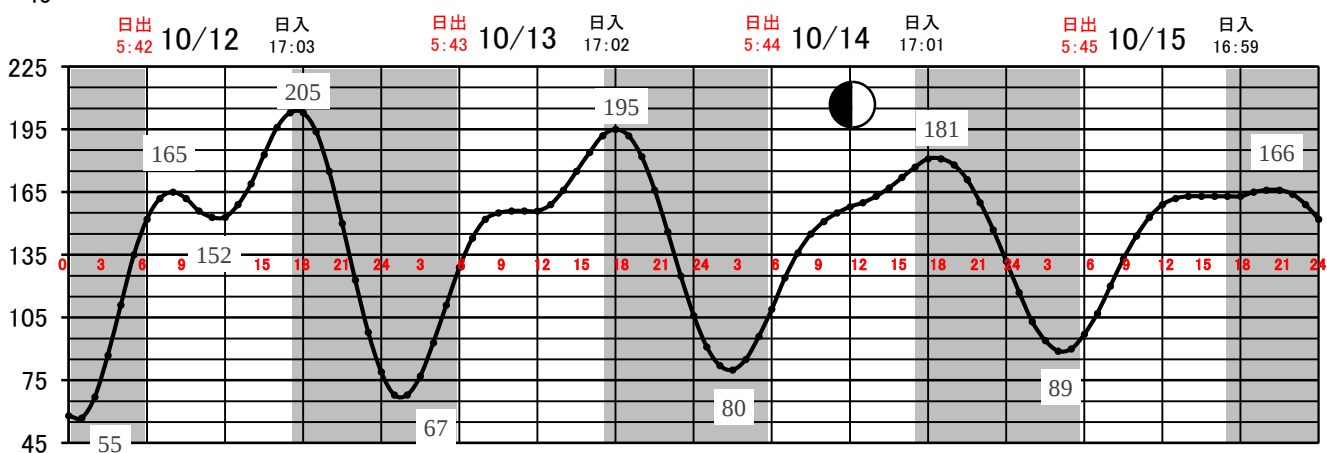
潮位

(cm)



潮位

(cm)



令和7年度 仙台新港 潮汐グラフ④ (平均水面 135cm)

潮位

(cm)

